



残されている記録によれば、江戸時代、永秀和上によって再興されたことが知られ、現在に至っています。

ひとの一生、楽ばかりでなく、ときには耐え難い苦とも遭います。そんなときご真言を唱えたり、法事に勤しんだりすることで、耐え難いものが耐えられるようになってくる。笑顔が戻ってきて、また前に向かって足を踏み出せるようになる。

それが仏道を歩むことの意味ではないでしょうか。

亡くなったひとを弔うだけではなく、今日生きるための元氣を与えてくれるみ仏のいますところ、それが今も昔も変わらない最照寺です。

最照寺

八幡山 無量寿院
〒192-0352 東京都八王子市大塚521
TEL 042-676-5167

■ 案内地図



■ 交通案内

多摩都市モノレール 大塚・帝京大学駅より徒歩4分

墓所のお問い合わせは

(有) 沼尾石材店

〒183-0055 東京都府中市府中町1-28-7

TEL 042-361-2703

e-mail info@numaosekizai.co.jp

URL <http://www.numaosekizai.co.jp/>



真言宗智山派

最照寺

八幡山 無量寿院

最照寺

八王子の高台に建つ八幡山無量寿院最照寺は、京都東山七条の智積院を総本山とする真言宗智山派のお寺で、多摩四国八十八ヶ所御霊場の第十九番礼所ともなっています。

その由来は安土桃山時代まで遡り、本山修験正浄院と号していたのを改称したとも、浄心院と無量寿院が合併したとも伝えられています。度重なる火災のためつまびらかではありません。



最照寺住職
杉田 純一

最照寺ってどんなお寺ですか？

最照寺は中世から今日まで、真言宗の教えを守り継ぎ、綿々と続いてきたお寺です。安土桃山時代、天正2年(1574)の頃まで本山修験正浄院あったのを改称したとも、浄心院と無量寿院が合併して成ったとも伝えられていますが、残念なことに、度々の火災でそれを明らかにする古文書が残っていません。

かつて本堂には、軍神上杉謙信で有名な上杉家の家紋があり、代々同家の寄進を受けていたとも伝えられています。

残されている記録によれば、江戸時代の寛永7年(1630)、永秀和上によって再建されたことが知られ、現在に至っています。山門の脇にある



不動明王像と六地藏石仏

江戸期の六地藏石仏や安政年間の過去帳などにその名残りを見ることが出来ます。
ご本尊の不動明王は室町期に彫られたものです。煩惱に囚われた人々を力づくでも仏の道に呼び戻すため、怖い顔をしています。心は大日如来の慈しみに満ちています。

真言宗智山派とはなんですか？

平安時代、弘法大師空海(744-835)が遣唐使の留学僧として唐に渡り、惠果和尚より正統な密教を学び、伝えたのが真言宗です。

平安末期には興教大師覚鑿(1095-1143)が現れ、高野山上に大伝法院を建立して空海の教えを再興します。



境内に立つ弘法大師像

その後、大伝法院は和歌山の根来寺に移りますが、豊臣秀吉の焼き討ちに遭い、京都に逃れた玄宥僧正(1529-1605)が、東山七条の地に智積院を建立、総本山としたのが真言宗智山派です。

真言宗の特色は空海の教えである「即身成仏」によく表れているといえるでしょう。無限に長い修行によらなければ成仏できないという

それまでの教えに対し、空海は誰でもその身そのまま成仏できると教えました。ひとはいつでも大日如来とともにあるのですから、煩惱から解放した自己がすでに心のなかにいるのです。これはとてもありがたい教えではないでしょうか。

現代人にとってどんな意味があるのでしょうか？

生老病死をはじめ、ひとの一生には「苦」がついてまわり、そこから逃れることはできません。ときには自分の一番大切なひとを失うといったような耐え難い苦しみもある。そんなときご真言を唱えたり、法事に勤しんだりすることで、自然と耐えられないものが耐えられるようになってくる。そしてまた笑顔が戻ってくる。前に向かって足を踏み出せるようになる。それが仏道を歩む意味

ではないのでしょうか。お寺は亡くなったひとを弔うだけの場所ではなくて、今日生きるための元気を与えてくれる仏様の家なのです。

本堂に掛かる大日如来画

